

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	4073600415		
法人名	有限会社 わたしのお家		
事業所名	グループホーム わたしのお家		
所在地	福岡県古賀市天神3-3-13 〒811-3101 (電話) 092-944-2148		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年11月14日	評定確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 14 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人	非常勤 8 人 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての ~		1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要 (10 月 14 日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	名	要介護 2	3 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低 77 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森田医院・歯科・かいクリニック・和白病院・雁の巣病院			
---------	----------------------------	--	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

行政勤務を経て定年を迎えた代表夫妻が、何らかの形で社会へ貢献したいと考え、生家を改修して3年前に開設したホームである。今年度、質の向上に向けた取組みとして、運営推進会議の定例化や利用者の重度化についての対応が挙げられた。ホームとして重度化に出来る限りの対応をしようという方針を決め、家族等と同意書を交わしたり、全員での家事作業や外出の頻度が減った分、個別支援への取組みに力を入れている。また、利用者の楽しみが増すように食事にも力を入れ、昼食に刺身、吸い物、具沢山オムレツ、十六穀飯、酢の物、果物と多品目が食卓に並び、一方で古賀市はグループホーム事業所が少なく、地域での認識度や交流の機会、他の事業所との交流機会が少ないといった悩みも聞かれた。事業所のみならず、地域、行政との交流をまじえながら更なる質の向上を目指しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部 4) 前回の評価結果について協議を行い、改善を図っている。この過程において、運営推進会議の定例化や重度化に関する対応等について改善への成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部 4) 今回の外部評価にあたり、管理者がまとめた自己評価を全職員で閲覧し、話し合いを行うなど、事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4,5,6) 前回評価からの改善項目である。家族を交代で招き、隣組長、民生委員、市職員の参加のもと2ヶ月毎に定期開催している。運営推進会議時には、ホームの行事や活動報告、利用者の状況報告、地域行事や交流活動の情報提供、地域での介護教室開催の提案、事業所の運営や地域高齢者についての質疑応答等がなされ、サービスの質の向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部8,9) 年2回の家族会は家族との懇談や交流が主で、意見や苦情が出ないため、家族の面会時やその都度の電話連絡、運営推進会議後の個別面談の際に直接申し出ていただけるように配慮している。家族からの意見や要望等があった場合は、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部 3) 町内の清掃や不燃物回収、防犯巡回活動への参加、回覧板まわし、公民館でのサークル活動に参加している。また、地域住民をホームの敬老会や豆まき会に招待するなど、地域の人々との交流を図る取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホーム名である「わたしのお家」は、利用者や職員、 地域の人々にとっても「我が家」とよべる場所となるこ とを願って命名された。そのコンセプトをホームの理 念とし、理念に基づいた支援の取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時やミーティング、カンファレンス時に理念につ いての話を行なっている。地域との交流についても、 古きよき時代の近所づきあい等について語り、自然な 形での交流を意識しながら、日々の暮らしを通じて理 念の実践に向けて取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内の清掃や不燃物回収、防犯巡回活動への参 加、回覧板まわし、公民館でのサークル活動に参加し ている。また、地域住民をホームの敬老会や豆まき会 に招待するなど、地域の人々との交流を図る取組み がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について協議を行い、改善を図っ ている。この過程において、運営推進会議の定例化 や重度化に関する対応等について改善への成果が 見られた。今回の外部評価にあたり、管理者がまとめ た自己評価を全職員で閲覧し、話し合いを行うなど、 事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時には、ホームの行事や活動報告、利用者の状況報告、地域行事や交流活動の情報提供、地域での介護教室開催の提案、事業所の運営や地域高齢者についての質疑応答等がなされ、サービスの質の向上に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、行政関係者及び地域住民を交えての関係作りへの取り組みがある。また、古賀市とはホーム開設の経緯を通じて交流の機会があり、現在も運営や地域密着サービスに関する相談等を行い、密な連携をとっている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料を準備し、契約時に利用者・家族に対して概要を説明している。その後は状況に応じて必要時に説明を行なう体制をとっている。		現在、家族会や運営推進会議等での説明等を計画されています。今後とも情報提供の機会を設け、地域や利用者に活用していただけるような支援を期待します。同時に、職員全員が支援に必要な知識を持ち、必要な時に対応できるような指導体制への継続的な取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や家族会時に、金銭管理簿や介護計画書、行事のスナップ等を提示しての報告や説明を行うほか、その都度の電話連絡も行っている。また、契約時になるべく面会の機会を確保していただける様に働きかける等の取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会は家族との懇談や交流が主で、意見や苦情が出ないため、家族の面会時やその都度の電話連絡、運営推進会議後の個別面談の際に直接申し出ていただけるように配慮している。家族からの意見や要望等があった場合は、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後、回答するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職事例は少なく、退職後もホームに遊びにくるなど馴染みの関係が継続している。また、新しい職員が入職した際は、利用者が職員に馴染めるよう引継ぎを行ないながら、コミュニケーションを主にとってもらい、日勤から徐々に馴染んでいけるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関して年齢や性別、経験の有無等に制限は設けておらず、やる気や熱心さを重点に採用している。ヘルパー2級の資格がない場合は、勤務しながら取得できるように支援している。職員の以前の経歴等を自然な形で発揮できるような場面を設け、楽しみややりがいをもって勤務できるように支援している。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表は、以前従事してきた行政業務の中で広く人権学習や啓発活動に携わってきた。その知識と経験から、ホーム内の勉強会の開催や外部学習会への参加に取り組む等、啓発に努めている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でも毎月勉強会を開催している。外部研修については情報を掲示し、希望を募っている。今年度については、実績が少なく今後の課題である。		今後は外部研修の参加を通じて、新しい知識の導入や他事業所との情報交換の機会の確保等も含めた、サービスの質の向上への取り組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の事業者連絡会に出席する等の交流の機会がある。職員間の交流の機会の確保は今後の課題である。		各現場職員の体験談や経験を通じて得た実感等が交わされる機会を持つことは、職員のモチベーションを高める大きなきっかけになりえます。職員同士の交流の機会を確保し、新たな発見や気付きをもってサービスの質の向上へ取り組まれることを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、家族の見学や面談を勧めている。入居後は、会議や朝礼で利用者の情報を職員全体で共有し、標準化した対応を行うことで、無理なく慣れていただく様に支援している。他の利用者との関係も、それぞれの個性を尊重し、ゆっくりと自然と馴染んでいけるように見守りながらの支援を行なっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の生活習慣や風習、家事の仕方など、日常のかかわりの中で学び支えあう関係を築いている。また、ねぎらいの言葉をかけ合うなど、相互の存在を支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時と計画の更新時に本人や家族からの聞き取りにより、生活歴等を含むアセスメントの概要をまとめている。入居後は、日常での会話や様々な場面を通じて、本人の思いを押し量れるように取り組み、介護計画書に反映させる等の取組みがある。		現在、毎年アセスメントを実施されています。年月を重ねるごとに変化する利用者の心身の状況が記録されていました。また、項目内容や記録の方法についても、改善に向けて検討されています。高齢化にともない意向や思いの汲み取りにも工夫が必要と思われませんが、更なる改善への取組みを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族、アセスメントを基に、計画作成担当者が介護計画の骨子を作成している。毎月の会議において職員は利用者の生活に沿った対応についてアイデアを出し合い、より具体的な支援方法を検討・周知するなど、職員全員で介護計画の作成と標準化された支援を行うための取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月の会議の中で、利用者ごとの状況や支援方法 について協議し、翌月の目標を作成している。定期的 には半年毎に、状況変化時にはその都度、家族の意 向や希望の確認を行い評価と見直しが行われてい る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	満室時に利用問い合わせがあった場合、申込者の 意向を聞きながら相談に応じ、関係機関等の紹介を 行なっている。また、医療連携体制の他にも、家族対 応が困難な場合の受診介助等、退去された利用者へ の訪問や入院時の面会など家族の状況に応じて柔 軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時に医療について説明し、利用者・家族が入居 後の主治医(歯科を含む)を選択している。原則的 にはかかりつけ医への受診は家族対応としている。 ホーム協力医の必要時及び定期的な往診(歯科を含 む)がある。また、必要に応じて地域の専門科(皮膚 科・眼科等)と連携しながら適切な医療が受けられ るように支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	事業所で重度化に関する指針を作成し、事業所自 体では医療行為が出来ない事と、医療との連携体制 について説明し、利用者家族から同意を得ている。利 用者の心身の状況に応じて、主治医を含めた関係者 で話し合いの機会を確保し、その都度の意向の確認 と情報を共有しながらの支援体制がある		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ等は、勉強会時 やその都度の指導を行っている。また、利用者への 呼称についても本人や家族の意向を確認しながら対 応している。個人情報となる記録等も取扱いに注意 し、事務所にて管理を行なっている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、入浴や食事のペース、食後の過 し方など、利用者一人ひとりのペースや希望を優先 した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	五感に働きかける要素として食事を重要な支援や 楽しみとして考えている。利用者一人ひとりの好みや リクエストに応じながらメニューを作成し、栄養士がチェック している。多品目摂取を目標としており、品数が多く多 彩な食材が使われ、視覚にも食欲をそそる献立内容 であった。利用者もできることを手伝いながら、職員と 共に食事を楽しんでいる様子が伺えた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴に関して、特に制限は設けておらず、利用者の 希望を優先し、日曜日以外は毎日の入浴も可能であ る。清潔保持の為に、シャワー浴や、週に2~3回の入 浴を勧め、タイミングを見計らった声掛け等、 工夫しながら定期的な入浴の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	年に1度のピクニックや行楽、敬老会や豆まき会、誕 生会等の行事を実施している。日常的には散歩や 歌、洗濯物たたみ、計算ドリル等、利用者一人ひとり の意向にそって個別に対応している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	定期的な外出に加えて、天候の良い時の散歩、買 い物、希望によるドライブ等個別にも対応しながら、戸 外に出る機会を確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、職員は利用者の様子を細か に観察し、見守りを行い、さりげなく声をかけたり、一 緒に出かける等の対応をしている。また、防犯の面か らセンサーを設置するなど、利用者の自由な暮らし を支える支援と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施を通して、避難経路や避難 場所等の確認を行っている。訓練は消防署の立会い のもと行われており、救命救急やAEDの指導も受け ている。災害時、地域の人々との協力体制づくりへの 働きかけは今後の課題である。		現在、消防署の指導のもと避難訓練を行なう等、 非常災害時の対応に取り組まれています。火災時等 の初期対応として、利用者の安全な誘導を行なう事 を最優先と考えた場合、近隣の住民の方々のご支 援ご協力をお願いできれば、何よりも心強い備えと なります。地域の皆様との協力体制づくりへの取組 みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	職員に栄養士資格取得者がおり、献立内容や栄養 バランス、カロリー等をチェックし提供している。また、 品数の多さや内容、利用者の好みや食習慣、キザミ 等の食事形態にも対応できるように支援している。食 事摂取量は毎回記録し、水分摂取については1日 1500ccを目安に、お茶ゼリーやポカリゼリー等状況 や好みに応じて水分補給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	採光が配慮されており、ウッドデッキやテラス等全体的に 明るい共用スペースになっている。優しい色調の家具や 壁紙、季節感を取り入れた装飾等、居心地良く過ごせ るような工夫がある。ソファや和室もあり、自由に横に なることもでき、自然とくつろげる様に工夫されてい る。また館内に昔の童謡が流れ優しく穏やかな雰囲気 をかもし出していた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室には、写真や絵画、テレビなどの 思い出の物や馴染みの物が持ち込まれており、居心 地良く過ごすための配慮が見られた。寝具においても ベッドや布団、畳を敷くなど利用者の生活習慣や身体 状況に応じて安全で使いやすいように工夫されてい る。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号